

昭和36年人口動態の概況

1 概要

本県の人口動態率は、戦後にいたり、全国と同様近代化が速度を速めており、昭和36年の大勢も、この近代化傾向（少産少死型）からはずれぬものではない。

一時はいわゆるベビーブームの再来がうわさされていたが、出生数は案外少なく、出生率は戦後最低を記録している。

しかし婚姻ブームはいつこう衰えるきざしをみせず婚

姻率は前年よりわずかに増加して、依然として高率である。死亡率低下の傾向は、昭和30年から昭和32年にかけてインフルエンザの流行があり、一時足ぶみをし、その後好転したが、昭和35年に再びインフルエンザの流行がみられ、昭和36年も昨年同様流行した。

本年の死亡数は前年よりやや多くなり、死亡率は前年と同率である。衛生状態を最も鋭敏に示す指標の一つといわれる乳児死亡率は漸次低下を続けていたが、本年は37.6（出生1,000対）という最低率を記録した。

1表 人口動態実数および率（前年との比較）

| | 実 数 | | 差 引 増 減 | 率 | |
|---------|-----------|-----------|----------|-----------|-----------|
| | 昭 和 3 6 年 | 昭 和 3 5 年 | | 昭 和 3 6 年 | 昭 和 3 5 年 |
| 出 生 | 35,346 | 36,631 | - 1,285 | 17.3 | 17.9 |
| 死 亡 | 17,651 | 17,578 | + 73 | 8.6 | 8.9 |
| 自 然 増 加 | 17,695 | 19,053 | -- 1,358 | 8.6 | 9.3 |
| 乳 児 死 亡 | 1,329 | 1,495 | - 166 | 37.6 | 40.8 |
| 死 産 | 3,461 | 3,500 | - 39 | 89.2 | 87.2 |
| 婚 姻 | 18,156 | 18,051 | + 105 | 8.9 | 8.8 |
| 離 婚 | 960 | 1,076 | - 116 | 0.5 | 0.5 |

（注）出生、死亡、自然増加、婚姻、離婚は人口1,000対乳児死亡は出生1,000対、出産は（出生+死産）1,000対の率である。

死因別にみると、前年と同様成人病、いわゆる中枢神経系の血管損傷、悪性新生物、心臓の疾患などが増加しまた本年はとくにインフルエンザとその流行に伴う肺炎および気管支炎の増加が目立っている。

昭和36年には死亡がややふえたとはいえ、この様な細菌性疾患の減少、成人病などの増加という死因構成の近代化傾向は相かわらず続いている。

2 出生率は低下する

戦後の昭和22年34.3から昭和32年18.6まで一方的に低下した本県の出生率も昭和33年ころから増加しはじめた婚姻の影響をうけ昭和33年18.6、昭和34年18.5、昭和35年17.9と低下傾向は停滞あるいは反騰し、その後の動向が注目されていた、ところが婚姻が引き続き増加しているにもかかわらず本年は婚姻増加の直接の影響は、うすらざはじめ、出生数は案外増加せずかえって前年より

1,285人減じ出生数35,346人、出生率17.3となり、戦前戦後を通じて最低の記録となった。

これは小人数の家族を望む風潮が浸透している様相を示すものといえよう。出生率の将来の動向は、現在婚姻ブームがまだ続いているので昭和35年、昭和36年にかけてのような低下とはならず、ときには反騰を含みながら緩慢な低下をとるものと思われる。

3 死亡はわずかにふえる

戦後本県の死亡率の改善はめざましく、昭和22年は、死亡数28,475人、死亡率14.1（人口1,000対）であつたがその後は年々減少し、昭和32年はインフルエンザの流行により一時反騰はあつたが、昭和34年には死亡数17,235人、死亡率8.3まで低下した。昭和35年にふたたびインフルエンザの流行をみ、本年も又同様に流行し、この影響によつて、死亡数は前年よりわずかに上まわつてい

る。死亡のうち、生後1年未満の乳児死亡については本年死亡数1,329人前年よりわずかに減り乳児死亡率は37.6で前年より減少し、戦前、戦後を通じて最低を記録した。

4 ふえた死因と減った死因

前年に比べて本年増加が予想されるおもな死因では中枢神経系の血管損傷（脳卒中）心臓の疾患、悪性新生物（癌、老衰、高血圧症などの成人病）があげられる。つぎに減少が予想されるおもな死因についてみると伝染病はほとんどすべてのものが減少し先天性弱などの新生児の疾患、胃腸炎、腎炎およびネフローゼなどの減少が目立っている。

5 婚姻ブーム続く

本年の婚姻件数は、婚姻ブームといわれた前年を、さらに105件上回る18,156件である、本県の婚姻率（人口1,000対）は引き続いて増加しており、本年は8.9となり高率を示しておる。一方離婚件数は前年より116件少ない960件、離婚率（人口1,000対）は0.46で戦後の最低率

に達した。婚姻の増加と相まって県民生活が安定してきたことを示している。これとともに注目されるのは近年平均初婚年齢がわずかながら上昇をみせていることで昭和34年は夫27.1才、妻24.3才となっており、昭和35年当時夫25.9才妻23.0才とくらべると男女とも1才以上高くなっている。これが婚姻が増加している割には出生がふえない一つの原因ともなっているといえよう。

6 死亡状況から見た県民の平均寿命は

本県の平均寿命を府県別生命表によつてみると、生まれたばかりの人は男なら61.76才、女なら65.85才まで平均して生きのびることが、期待出来るということになっている。女の平均余命は昭和31年も昭和25年も同様にいずれの年齢においても男のそれより長く、0才で4.09年20才で3.69年、40才で3.68年、60才で3.29年の差を示している。昭和22年は男52.96才、女56.52才と著しく低下していたが、その後死亡率の顕著な改善を反映して驚異的な上昇をみせ、昭和25年から昭和31年にいたる7年間に男は約5年、女は約6年伸び長命となっている。人生50年は戦前で終止符をうつたといえよう。

2表 平均余命 C°X — 昭和25年との比較

| | 男 | | | 女 | | |
|----|-------|-------|----------|-------|-------|----------|
| | 昭和25年 | 昭和31年 | 昭和25年との差 | 昭和25年 | 昭和31年 | 昭和25年との差 |
| 0 | 56.64 | 61.76 | 5.12 | 59.48 | 65.85 | 6.37 |
| 1 | 59.96 | 64.33 | 4.37 | 62.52 | 68.08 | 5.56 |
| 5 | 58.35 | 61.76 | 3.41 | 61.21 | 65.51 | 4.30 |
| 10 | 54.17 | 57.31 | 3.14 | 56.93 | 61.08 | 4.15 |
| 20 | 44.97 | 47.93 | 2.96 | 47.92 | 51.62 | 3.70 |
| 30 | 36.90 | 39.07 | 2.17 | 39.96 | 42.68 | 2.72 |
| 40 | 28.70 | 30.20 | 1.50 | 31.83 | 33.88 | 2.05 |
| 50 | 20.63 | 21.66 | 1.03 | 23.68 | 25.26 | 1.58 |
| 60 | 13.41 | 14.15 | 0.74 | 16.15 | 17.44 | 1.29 |
| 70 | 8.10 | 8.45 | 0.35 | 9.83 | 10.64 | 0.81 |

本県の平均余命は驚異的な伸長をみせているが、全国平均余命と比較すると、男で1.52年、女で1.48年短かい、これは乳児死亡率によるものである。

本県の平均余命が伸長したことは、生活水準の向上、

近代医学の基礎の上にたつての医療および公衆衛生の普及、向上にともなう県民の健康水準の高まりとともに出生率の低下、乳児死亡率の改善によるものである。

(資料 県衛生部医薬務課)